

第2章 医療部門

1 子ども心身医療センター

(1) 概要・診療体制

ア 概要

子ども心身医療センターは、札幌市子ども発達支援総合センター内にある診療所で、児童精神科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の5科があり、原則18歳未満の子どもを対象に心理治療やリハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）、デイケア、保育、家族支援、各種検査・相談等を行っている。

(ア) 児童精神科

概ね小学生から中高生までの、発達や精神症状、行動上の問題等についての診療を行っている。必要に応じて、各種心理検査、採血等の検査、精神療法、環境調整、薬物療法を行っている。心理士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー、看護師などが協働して診療にあたっている。

(イ) 小児科

乳幼児期からの子どもを対象に、ことばや対人面の発達、器用さや粗大運動の発達、行動上の心配事などについての診療を行っている。必要に応じて、血液検査や脳波など生理学的な検査、心理発達検査を行い、環境調整や子どもとの関わり方、薬物療法などについての相談を行っている。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・保育士・心理士・ケースワーカー・看護師などが協働して診療を行っている。

(ウ) 整形外科

運動障がいや姿勢に異常がある子どもを対象に診療を行っている。靴や車いす等の補装具に関する相談と処方も行っている。

(エ) 眼科

心身の発達に遅れのある子どもで、物の見え方や斜視の心配のある子どもを対象に診療を行っている。

(オ) 耳鼻咽喉科

心身の発達に遅れのある子どもで、主に耳の聞こえが心配な子どもを対象に診療を行っている。

(カ) リハビリテーション

発達の遅れや心身に障がいのある子どもを対象に理学療法、作業療法、言語聴覚療法、外来保育を行っている。

(キ) 心理

医師の指示のもと、心理治療、心理検査などを行っている。更に関係機関との連携も必要に応じて行っている。

(ク) デイケア

児童精神科における外来治療のひとつ。同年代のメンバーやスタッフと一緒に様々な活動を行っている。『安心して過ごせる場所がほしい』『同年代の友だちとかかわりたい』『規則正しい生活を送りたい』など、一人ひとりの希望や目標を大事にしている（令和6年度は休止）。

イ 診療体制（令和7年5月1日現在）

- (ア) 児童精神科 医師数2名（非常勤5名）
- (イ) 小児科 医師数4名（非常勤1名）
- (ウ) 整形外科 医師数0名（非常勤2名）
（うち1名は発達医療センターと兼務）
- (エ) 眼科 医師数0名（非常勤1名）
- (オ) 耳鼻咽喉科 医師数0名（非常勤1名）

ウ 診療件数

（単位：人）

区 分	児童精神科	小 児 科	整形外科	眼 科	耳鼻咽喉科	合 計
延べ患者数	7,747	10,323	557	14	22	18,663
実患者数	6,687	5,415	446	14	22	12,584
新患者数	161	182	32	10	1	386

エ 月別新患数

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童精神科	15	12	16	13	18	12	16	14	12	10	11	12	161
小 児 科	16	15	13	17	13	13	18	15	17	16	14	15	182
整形外科	3	2	4	7	3	2	4	3	1	2	1	0	32
眼 科	0	4	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	10
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合 計	34	33	33	38	34	28	39	34	30	29	26	28	386

(2) 児童精神科

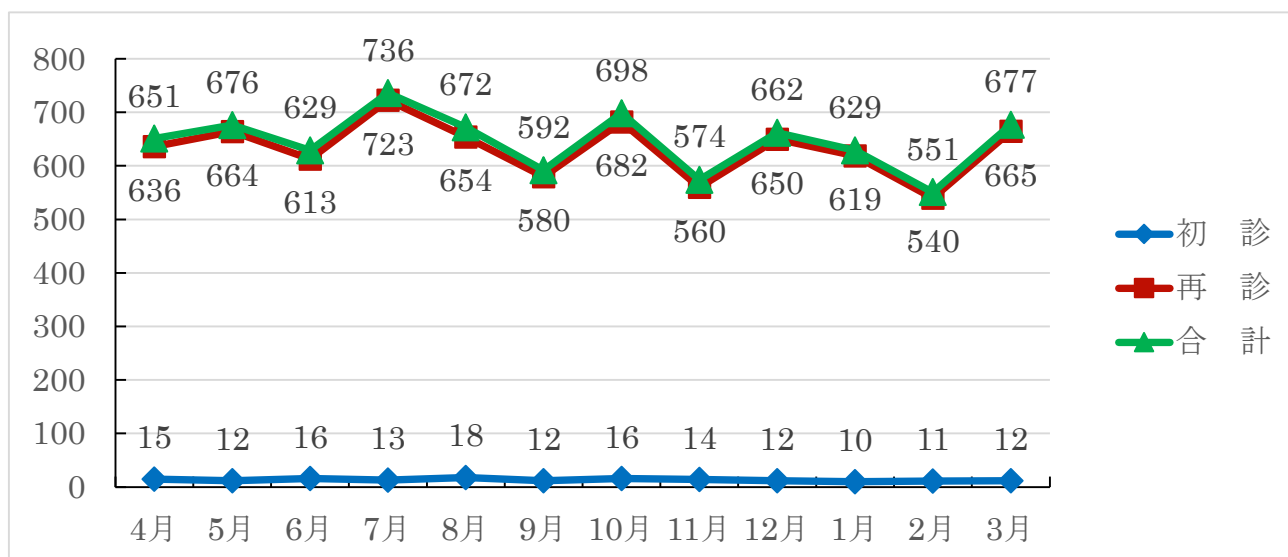
ア 月別患者数

(単位：人)

児童精神科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	15	12	16	13	18	12	16	14	12	10	11	12	161
再診	636	664	613	723	654	580	682	560	650	619	540	665	7,586
合計	651	676	629	736	672	592	698	574	662	629	551	677	7,747
実患者数	540	588	541	614	589	525	577	504	578	550	488	593	6,687

新患数は年間 161 名で、新患待機日数はおおむね 4 か月前後で推移している。

(単位：人)



イ 初診患者の性別・年齢別・居住区別統計

(ア) 年齢別・年齢区分別

(単位：人)

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
件数	1	2	2	0	8	17	24	25	21	21
割合	0.6%	1.2%	1.2%	0%	5.0%	10.6%	14.9%	15.5%	13.0%	13.0%

年齢	11	12	13	14	15	合計
件数	11	13	11	4	1	161
割合	6.8%	8.1%	6.8%	2.5%	0.6%	100%

年齢区分	乳幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6
件数	17	20	29	24	23	13	13
割合	10.6%	12.4%	18.0%	14.9%	14.3%	8.1%	8.1%

年齢区分 1	中 1	中 2	中 3	合 計
件 数	13	7	2	161
割 合	8.1%	4.3%	1.2%	100%

年齢別では 8 歳の初診が一番多く、以後はおおむね年齢ごとに減少している。

(イ) 性別

(単位：人)

性 別	男	女	合 計
人 数	103	58	161
割 合	64.0%	36.0%	100%

性別では男性が多くなっている。

(ウ) 居住市町村別

(単位：人)

市町村名	札幌市	石狩支庁	胆振支庁	十勝支庁	合計
人数	152	7	1	1	161
割合	94.4%	4.3%	0.6%	0.6%	100%

(エ) 居住区別

(単位：人)

区名	豊平	白石	南	中央	東	清田	西	北	厚別	手稲	合計
人数	57	25	19	16	9	7	7	5	4	3	152
割合	37.5%	16.4%	12.5%	10.5%	5.9%	4.6%	4.6%	3.3%	2.6%	2.0%	100%

居住市町村別では、94.4%が市内在住で、区別では豊平区が全体の 3 割以上を占めている。

ウ 初診時統計

(ア) 紹介元別一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 元	人 数	割 合
医療機関	児童精神科	19	11.8%
	精神科	4	2.5%
	小児科（一般）	14	8.7%
	その他の科	3	1.9%
	〈 小 計 〉	40	24.8%
教育機関	小学校・スクールカウンセラー	13	8.1%
	中学校・スクールカウンセラー	1	0.6%
	〈 小 計 〉	14	8.7%
行政機関	保健センター・保健所	3	1.9%
関係機関	児童発達支援事業所（デイサービス）	1	0.6%
その他	兄弟姉妹ケース	11	6.8%
紹介状なし		92	57.1%
合 計		161	100.0%

紹介元では、医療機関からの紹介が 24.8%と最も多く、その中でも児童精神科からの受診が大半を占めている。

57.1%が紹介状なしで受診されているが、実際は他機関から勧められて受診されているケースが大半である。教育機関からの紹介もあり、医師が教員・保育士等と情報交換を行う機会も増えている。

(イ) 初診時主訴別統計

(単位：人)

初 診 時 主 訴	人 数	割 合
多動、衝動性、不注意などのAD／HD症状を呈していた群	26	16.1%
パニックやかんしゃくが問題であった群	26	16.1%
コミュニケーションや対人関係などの社会性の問題を主訴に受診した群	25	15.5%
学習の問題を訴えていた群	21	13.0%
粗暴行為が問題の中心となっていた群	15	9.3%
不安症状により受診した群	10	6.2%
不登校が問題の中心となっていた群	8	5.0%
乳幼児期のことばの遅れ、発達の心配が問題であった群	6	3.7%
身体疾患の治療をすでにうけていたが改善なく、受診時に身体症状を訴えていた群	3	1.9%
睡眠の問題が中心となっていた群	2	1.2%
運動の問題が中心となっていた群	2	1.2%
自傷・自殺関連行動が中心となっていた群	1	0.6%
いじめを受けていた群	1	0.6%
ネット・ゲーム依存が問題の中心となっていた群	1	0.6%
チック症状により受診した群	1	0.6%
特児・診断書のため	1	0.6%
その他	12	7.5%
合 計	161	100%

多動、衝動性、不注意などのAD／HD症状を呈していた群とパニックやかんしゃくが問題であった群が共に 16.1%で最も多く、次いでコミュニケーションや対人関係などの社会性の問題を主訴に受診した群が 15.5%、学習の問題を訴えていた群が 13.0%となっており、この4項目で約6割を占めている。

(ウ) 初診時診断別統計 1

(単位：件)

初診時 ICD 診断（複数診断）	第 1 病 名	第 2 病 名	第 3 病 名	合 計	割 合
F30-F39 気分〈感情〉障害	1	0	0	1	0.6%
F40 恐怖症性不安障害	2	0	0	2	1.2%
F41 その他の不安障害	3	3	1	7	4.3%
F42 強迫性障害	0	1	0	1	0.6%
F43 重度ストレスへの反応及び適応障害	11	1	1	13	8.1%
F51 非器質性睡眠障害	0	1	1	2	1.2%
F70-F79 知的障害〈精神遅滞〉	5	2	1	8	5.0%
F80 会話及び言語の特異的発達障害	3	2	0	5	3.1%
F81 学習能力の特異的発達障害	10	21	11	42	26.1%
F82 運動機能の特異的発達障害	1	2	2	5	3.1%
F83 混合性特異的発達障害	0	1	0	1	0.6%
F84 広汎性発達障害	102	27	1	130	80.7%
F90 多動性障害	13	27	6	46	28.6%
F91 素行障害	0	4	0	4	2.5%
F92 行為及び情緒の混合性障害	0	2	2	4	2.5%
F93 小児期に特異的に発症する情緒障害	1	6	0	7	4.3%
F94 小児期及び青年期に特異的に発症する社会的機能の障害	1	0	2	3	1.9%
F95 チック障害	1	0	3	4	2.5%
F98 小児期及び青年期に通常発症するその他の行動及び情緒の問題	2	0	1	3	1.9%
その他	1	0	0	1	0.6%
精神科的問題なし	4	0	0	4	2.5%
合 計	161	100	32	293	

初診時に複数の診断名がついた患者が 100 名おり、うち 32 名は 3 つの診断名がついている。初診時の診断名では、広汎性発達障害が新患の 80.7%についており最多で、続いて多動性障害 (28.6%)、学習能力の特異的発達障害 (26.1%) となっている。

(エ) 初診時診断別統計 2

(単位：件)

初診時 DSM 診断（複数診断）	第 1 病 名	第 2 病 名	第 3 病 名	合 計	割 合
自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害	102	26	1	129	80.1%
注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害	13	28	6	47	29.2%
限局性学習症/限局性学習障害	10	20	11	41	25.5%
不安症群/不安障害群	7	9	1	17	10.6%
心的外傷およびストレス因関連障害群	11	1	4	16	9.9%
知的能力障害群	5	2	1	8	5.0%
コミュニケーション症群/コミュニケーション障害群	5	3	0	8	5.0%
秩序破壊的・衝動制御・素行障害	0	6	2	8	5.0%
運動症群/運動障害群	1	3	2	6	3.7%
チック症群/チック障害群	1	0	3	4	2.5%
精神科的問題なし	4	0	0	4	2.5%
睡眠-覚醒障害群	0	1	1	2	1.2%
強迫症および関連症群/強迫性障害および関連障害群	0	1	0	1	0.6%
抑うつ障害群	1	0	0	1	0.6%
他の神経発達症群/他の神経発達障害群	0	1	0	1	0.6%
その他	1	0	0	1	0.6%
合 計	161	101	32	294	

初診時の診断では、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害の診断を受けている患者が 80.1% であり、新患の大半を占めている。その他の診断では、注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害 (29.2%) と限局性学習症/限局性学習障害 (25.5%) が多くなっている。

エ その他

(ア) 医師の診察外業務

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ケース会議・面談	1	5	9	5	10	5	5	6	5	2	1	2	56
要対協のケース会議	1	0	4	0	0	2	0	2	4	0	0	0	13

ケース会議・面談は、施設などの支援機関との会議や学校の教諭等との面談にて、相談を受け助言を行っている。要対協のケース会議は、虐待を受けている子どもを始めとする支援対象児童等の早期発見や適切な保護を図るために行われる会議であり、必要に応じて医師も情報交換や支援内容の協議を行うために参加している。

(イ) 文書作成

(単位：件)

診療情報 提供書	特児診断 書	自立支援 診断書	学校への 手紙	デイ意見 書	福祉手当 診断書	受診状況 診断書	その他
139	123	59	53	47	16	14	38

(3) 小児科

ア 月別患者数

(単位：人)

小児科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	16	15	13	17	13	13	18	15	17	16	14	15	182
再診	771	814	790	871	796	795	914	861	792	931	888	918	10,141
合計	787	829	803	888	809	808	932	876	809	947	902	933	10,323
実患者数	413	410	421	442	421	438	485	446	455	502	480	502	5,415

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比率
中 央 区	3	4	2	2	6	3	1	0	21	11.5%
北 区	0	2	1	1	0	2	0	0	6	3.3%
東 区	1	5	2	2	2	0	1	0	13	7.1%
白 石 区	3	1	1	3	2	3	3	0	16	8.8%
厚 別 区	1	0	2	1	0	0	1	0	5	2.7%
豊 平 区	4	21	6	10	9	8	8	0	66	36.3%
清 田 区	1	1	2	2	3	1	0	0	10	5.5%
南 区	1	7	7	3	4	5	2	0	29	15.9%
西 区	2	0	1	5	0	1	2	0	11	6.0%
手 稲 区	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1.1%
札幌市計	16	42	24	30	26	23	18	0	179	98.4%
市 外	0	1	0	0	1	0	1	0	3	1.6%
合 計	16	43	24	30	27	23	19	0	182	100%
比 率	8.8%	23.6%	13.2%	16.5%	14.8%	12.6%	10.4%	0.0%	100%	

近隣の豊平区、南区の新患数が約半数を占めている。年齢別では保健センターの健診からの紹介患者が多いため、4歳未満の新患数が全体の約6割を占めている。

また、令和5年度より就学前までの発達面の新患を受けるようになり、4歳から5歳児の受診が全体の約3割と増えている。

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比率 (%)
札幌市保健センター	中央	3	32.4%
	北	1	
	東	4	
	白石	7	
	厚別	1	
	豊平	22	
	清田	2	
	南	18	
	西	1	
	手稲	0	
	〈 小 計 〉	59	
医 療 機 関	北海道立子ども総合医療・療育センター	8	30.8%
	北海道大学病院	6	
	天使病院	5	
	札幌医科大学医学部附属病院	4	
	JCHO北海道病院	4	
	札幌こころの診療所	4	
	市立札幌病院	2	
	KKR札幌医療センター	2	
	氏家記念子どもクリニック	1	
	札幌市内病院	7	
	札幌市外病院/療育センター	13	
	〈 小 計 〉	56	
子ども心身医療センター内	児童精神科	0	0.5%
	整形外科	1	
	〈 小 計 〉	1	
関 係 機 関	札幌市内子ども発達支援（さっぽ）	0	0.0%
	市外発達支援センター/市外保健センター	0	
	〈 小 計 〉	0	
教 育 機 関	保育園	0	0.0%
	幼稚園	0	
	〈 小 計 〉	0	
そ の 他	親自身の判断（地域支援室経由）	65	36.3%
	その他（さっぽ）	1	
	〈 小 計 〉	66	
合 計		182	100%

保健センター・他の医療機関からの紹介が多い。

エ 初診時診断名

「発達遅滞・発達障がい」と「聴覚言語障がい」の患者数の割合が8割以上を占めている。

(単位：件)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳 性 麻 痺	脳性麻痺	1	1	0.5%
先 天 異 常	先天性水頭症	1	4	2.2%
	スタージーウェーバー症候群	1		
	コフィン・シリス症候群	1		
	white-sutton 症候群	1		
内分泌・代謝異常	偽性副甲状腺機能低下症	1	1	0.5%
染色体異常	ダウン症候群	6	6	3.3%
骨・関節疾患	歩容以上等	1	1	0.5%
発達遅滞・発達障がい	自閉スペクトラム症 (ASD)	46	132	72.5%
	運動発達遅滞	33		
	神経発達症	13		
	注意欠陥・多動症 (ADHD)	13		
	精神運動発達遅滞	9		
	発達性協調運動症 (DCD)	6		
	全般性発達遅滞	5		
	社会的コミュニケーション症 (SCD)	3		
	知的能力障害群 (ID)	1		
	不安症	1		
聴覚言語障がい	言語発達遅滞 (表出性)	26	29	15.9%
	吃音	2		
	摂食障がい	1		
その他	早産 低出生・超低出生児	7	8	4.4%
	重症新生児仮死	1		
合 計		182	182	100%

オ その他

(ア) 医師の診察外業務

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
研修会講師	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
ケース会議 (子ども心身医療課内)	1	0	0	2	0	5	0	0	5	5	0	3	21
ケース会議 (通園施設)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	4

(イ) 文書作成

(単位：件)

診療情報提供書	特児診断書	身体障がい者手帳	学校・保育園・幼稚園・デイへの手紙	デイ意見書	福祉手当診断書	加配診断書	産科医療補償制度	その他	合計
52	53	22	74	43	20	23	4	36	327

(4) 整形外科

ア 月別患者数

(単位：人)

整形外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	3	2	4	7	3	2	4	3	1	2	1	0	32
再診	65	49	37	54	37	47	42	43	50	34	27	40	525
合計	68	51	41	61	40	49	46	46	51	36	28	40	557
実患者数	49	43	34	42	33	38	41	39	39	33	24	31	446

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比率
中央区	0	0	2	1	1	1	1	0	6	18.8%
北 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東 区	0	0	2	0	0	0	1	0	3	9.4%
白石区	0	2	0	0	0	0	0	0	2	6.3%
厚別区	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3.1%
豊平区	0	1	5	0	0	2	2	0	10	31.3%
清田区	0	0	4	0	0	0	0	0	4	12.5%
南 区	0	0	2	1	2	1	0	0	6	18.8%
西 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
札幌市計	0	3	16	2	3	4	4	0	32	100%
市 外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合 計	0	3	16	2	3	4	4	0	32	100%
比 率	0.0%	9.4%	50.0%	6.3%	9.4%	12.5%	12.5%	0.0%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比 率
医療機関	北海道立子ども総合医療・療育センター	1	6.3%
	f クリニック	1	
	〈 小 計 〉	2	
子ども心身医療センター内	児童精神科	1	81.3%
	小児科	23	
	リハビリテーション係	2	
	ひまわり整肢園	0	
	〈 小 計 〉	26	
関係機関	札幌市外療育センター/通園施設	0	0.0%
	〈 小 計 〉	0	
そ の 他	親自身の判断	4	12.5%
	その他	0	
	〈 小 計 〉	4	
合 計		32	100%

子ども心身医療センター内からの紹介が大半を占められている。

エ 初診時診断名

(単位：件)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
染色体異常	ダウン症候群	5	6	18.8%
	その他染色体異常	1		
骨・関節疾患	脊椎湾曲症	12	26	81.2%
	両股関節臼蓋形成不全	6		
	両下肢形成不全	4		
	左癒性尖足	1		
	頸椎不安定症	1		
	両外反扁平足	1		
	両強剛母指・両手伸展制限	1		
合 計		32	32	100%

(5) 眼科

ア 月別患者数

(単位：人)

眼科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	0	4	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	10
再診	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4
合計	0	5	0	3	0	1	0	3	0	1	0	1	14
実患者数	0	5	0	3	0	1	0	3	0	1	0	1	14

2か月ごとの診察。学校健診・視力検査練習のケースが多い。

(6) 耳鼻咽喉科

ア 月別患者数

(単位：人)

耳鼻咽喉科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
再診	1	3	1	0	3	0	3	1	4	2	1	2	21
合計	1	3	1	0	3	0	4	1	4	2	1	2	22
実患者数	1	3	1	0	3	0	4	1	4	2	1	2	22

イ 聴力検査数

(単位：件)

COR	4	TG	0	プレイオージオ	0
AG	0	DPOAE	0		

(7) リハビリテーション

ア リハビリテーション件数

(単位：件)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
理学療法	275	287	289	315	285	281	299	296	257	316	293	327	3,520
作業療法	242	261	235	266	245	244	259	234	244	280	267	255	3,032
言語聴覚療法	113	117	101	109	123	116	117	107	98	116	120	101	1,338
合 計	630	665	625	690	653	641	675	637	599	712	680	683	7,890

イ リハビリテーション実数

(単位：人)

区 分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
年間人数	245	308	128
職員 1 人の担当数	53.3	61.6	42.7

ウ 診療科別リハビリテーション指示数

(単位：人)

区 分	小 児 科	整形外科	児童精神科	合 計
理学療法	44	0	0	44
作業療法	69	0	61	130
言語聴覚療法	32	0	7	39
合 計	145	0	68	213

エ 年齢別のリハビリテーション状況

(単位：人)

区 分	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 ～ 11 歳	12 ～ 14 歳	15 ～ 17 歳	18 歳 ～	合計
理学療法のみ	2	23	46	26	8	5	24	20	11	6	171
作業療法のみ	0	0	2	22	38	46	95	21	3	0	227
言語聴覚療法のみ	0	2	1	5	11	17	31	1	1	0	69
理学+作業療法	0	2	1	6	1	5	23	6	7	2	53
理学+言語聴覚療法	1	4	10	5	1	2	3	3	0	0	29
作業+言語聴覚療法	0	0	0	1	6	12	7	0	0	0	26
理学+作業+言語聴覚療法	0	1	0	2	0	1	6	4	2	1	17
合 計	3	32	60	67	65	88	189	55	24	9	592

※年度途中のリハ終了児およびリハ種別変更児も含む。

オ 実習受入

(令和6年4月～令和7年3月)

月 日	学校名など	人数
11月25日～11月29日	札幌リハビリテーション専門学校 作業療法士科	1
1月20日～1月24日	札幌医科大学保健医療学部 理学療法学科第1学年	2
2月3日～2月7日	北海道大学医学部保健学科 理学療法学専攻2学年	1

(8) 外来保育

ア 対象児童

当センター小児科を受診している0歳児から就学前の子どもを対象に集団保育、個別保育を行っている。

集団保育は、通園、保育園、幼稚園、デイサービスなど他の施設を利用する場合は終了となる。

イ 保育形態

「のびのび広場」「個別保育」の2形態で実施

	方 法	頻 度	人 数	時 間
のびのび広場	集団保育 (5グループ)	週1回	1グループ 親子2～4名	午前1時間40分
個別保育	個別保育	週1回程度	親子1組	1時間

ウ 「のびのび広場」実施状況

(単位：人)

年 齢 疾患名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
神経発達症	1	6	8	1	0	0	16
知的発達症	0	0	1	0	0	0	1
脳性麻痺	0	0	0	0	0	0	0
脳性麻痺と神経発達症	0	0	0	0	0	0	0
脳性麻痺と知的発達症	0	0	0	0	0	0	0
染色体・遺伝子異常	0	0	0	0	0	0	0
全般的発達遅滞	0	1	0	0	0	0	1
合 計	1	7	9	1	0	0	18

エ 「個別保育」実施状況

(単位：人)

年 齢 疾患名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
神経発達症	1	7	6	2	1	0	17
知的発達症	0	0	0	0	0	0	0
脳性麻痺	0	0	1	0	0	0	1
脳性麻痺と神経発達症	0	0	0	1	0	0	1
脳性麻痺と知的発達症	0	0	0	0	0	0	0
染色体・遺伝子異常	0	0	0	0	0	0	0
全般的発達遅滞	4	1	0	0	0	0	5
合 計	5	8	7	3	1	0	24

(9) 心理

ア 心理治療

医師からの指示により、セラピスト(心理士)による心理治療を行っている。実施に際してはアセスメントをもとに、医師とセラピストが通院頻度や内容などを検討し開始している。

<年齢別患者数>

(単位：人)

区 分	心理治療					
	乳幼児	小学生	中学生	中卒以上	保護者	合計
4 月	0	31	27	12	1	71
5 月	0	30	27	8	0	65
6 月	0	30	29	9	1	69
7 月	1	42	29	11	1	84
8 月	0	36	29	10	0	75
9 月	0	42	23	7	1	73
10 月	0	39	23	9	8	79
11 月	0	37	29	7	2	75
12 月	0	38	29	7	3	77
1 月	0	36	28	7	4	75
2 月	1	38	25	5	3	72
3 月	1	37	22	7	3	70
合 計	3	436	320	99	27	885

<年齢別実人数>

(単位：人)

乳幼児	小学生	中学生	中卒以上	合計
2	51	23	7	81

発達障がいのある乳幼児の心理治療の場合、多くは母子同室の形態をとっている。心理治療では子どもの発達を支援するとともに、母子関係の不調和が生じやすい母子に対して、積極的な働きかけを行い、母子関係の結びつきを深めるとともに、とかくぎくしゃくしがちな母子関係の修復を図ること、達成感や楽しみをセラピストや保護者と共有すること、子どもを理解することの援助などを目的としている。

学齢期以降の、不適応行動や不登校、被虐待児などの子どもの心理治療の場合は、その子の課題、問題に対して焦点を当て、心理的アプローチを行っている。子どもの場合、内面の葛藤を言語化して表現することが難しい場合も多く、非言語的アプローチとしてプレイセラピー、箱庭療法、描画療法などを用いることもある。また、認知行動療法やトラウマに焦点を当てた心理治療なども行っている。

イ 心理検査

発達検査及び知能検査、人格検査、認知機能検査その他の心理検査などを組み合わせて実施している。児童精神科、小児科それぞれから医師の指示を受けて実施している。

令和6年度の検査実施人数は632件となり内訳は下のようになっている。

<検査数>年度後半に小児科からのオーダーが増えてきている。児童精神科は小学生が半数以上を占め、小児科は幼児が8割以上を占めている。

(単位：件)

実人数	児童精神科				小児科				合計
	幼児	小学生	中学生	中卒以上	幼児	小学生	中学生	中卒以上	
計	30	204	54	16	279	48	1	0	632
種別計	304				328				632

<検査の内訳>精神科は一人に対して、複数の検査を組み合わせるケースが多く実際の検査数は実人数の1.5倍近くになる。また読み書きに関する検査など、診療報酬に算定できないものも増えている。小児科は発達及び知能検査が主である。

(単位：件)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童精神科	発達及び知能検査	23	23	26	35	25	18	21	15	27	18	15	31	277
	人格検査	5	2	7	10	5	14	14	4	14	6	7	8	96
	認知機能検査 その他の心理検査	1	4	3	3	3	3	4	8	1	1	6	6	43
	その他(診療報酬算定 できない心理検査)	3	6	5	6	4	8	11	3	6	3	2	5	62
	合 計	32	35	41	54	37	43	50	30	48	28	30	50	478
	実施件数(実人数)	25	24	25	36	27	20	27	17	32	20	18	33	304
小児科	発達及び知能検査	17	18	27	23	20	30	38	30	24	35	37	28	327
	人格検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	認知機能検査 その他の心理検査	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	その他(診療報酬算定 できない心理検査)	1	0	2	3	1	0	1	1	0	2	0	0	11
	合 計	18	19	29	26	22	30	39	31	25	37	37	30	343
	実施件数(実人数)	17	19	27	22	20	31	39	29	25	35	37	27	328

区 分	主な検査の種類
発達及び知能検査	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、新版 K 式発達検査 2020、WISC-IV 知能検査、WISC-V 知能検査、鈴木ビネー知能検査等
人格検査	バウムテスト、SCT、P-F スタディ、ロールシャッハ・テスト、描画テスト等
認知機能検査・その他の心理検査	音読検査（特異的発達障害を対象にしたもの）、ベントン視覚記名検査、ベンダーゲシュタルトテスト、K-ABC II、PARS-TR 等
その他（診療報酬算定できない心理検査）	STRAW-R、ひらがな聴写テスト、感覚プロファイル、KIDS 乳幼児発達スケール、算数障害のための症状評価のための課題、S-HTP、TSCC、AN-EGOGRAM 等

ウ 親支援プログラム（ペアレント・プログラムおよびペアレント・トレーニング）

児童精神科の場合、子どもの治療だけでなく、その子どもを養育している保護者、親に対する支援も重要と考えている。これまで継続して行ってきた親支援プログラムであったが、感染症対策の一環として、集団を対象にした支援は休止している。ただしニーズの高いご家族に対しては、本来は集団で取り扱うものではあるが、各家庭を対象に個別的なペアレント・プログラムおよびペアレント・トレーニングを実施している。

エ 実習受け入れ

月 日	学校名など	人数
6 月 27 日	北海道医療大学心理科学部（見学実習）	2 名
7 月 11 日	札幌学院大学（見学実習）	7 名
7 月 31 日	北星学園大学社会福祉学部（見学実習）	4 名
9 月 2 日～13 日	北星学園大学大学院社会福祉学研究科	1 名
9 月 10 日	北海道大学教育学部（見学実習）	8 名
9 月 11 日	北翔大学教育文化学部（見学実習）	10 名
9 月 13 日	藤女子大学人間生活学部（見学実習）	3 名
9 月 17 日～27 日	北翔大学大学院人間福祉学研究科	1 名
11 月 11 日～15 日	北海道教育大学大学院教育学研究科	1 名
11 月 18 日～22 日	北海道教育大学大学院教育学研究科	1 名
11 月 25 日～29 日	北海道教育大学大学院教育学研究科	1 名

(10) その他

ア 臨床検査

(単位：件)

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
臨床 検査	血液	154	216	154	191	226	213	197	276	228	315	241	216	2,627
	尿, その他	12	13	9	13	14	12	13	10	12	16	10	10	144
脳波検査		5	9	7	11	10	6	8	11	9	9	6	16	107
心電図検査		6	2	4	2	3	2	1	4	3	0	5	6	38

イ レントゲン

(単位：件)

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
X 線 撮 影	児童精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科	92	71	57	98	58	67	87	78	62	47	42	49	808
	耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合 計	92	71	57	98	58	67	87	78	62	47	43	50	810

2 発達医療センター

(1) 概要・診療体制

ア 概要

発達医療センターは、札幌市児童福祉総合センターの3階にある診療所で、小児科、整形外科の2科があり、原則18歳未満の子どもを対象に運動発達の遅れや身体の障がい疑われる子どもを早期に診断し、治療やリハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）、家族支援などを行っている。平成27年度は、改修工事のため休診し、子ども心身医療センター内にて診療を行っていたが、平成28年度からは子ども心身医療センターとの2か所に機能を分割し再開した。

(ア) 小児科

運動発達の遅れや運動障がい疑われる子ども、不器用な子ども、ことばの発達に心配のある子どもなどを対象に診療を行っている。

(イ) 整形外科

運動障がいや姿勢に異常がある子どもを対象に診療を行っている。靴や車いす等の補装具に関する相談と処方も行っている。

(ウ) リハビリテーション

発達の遅れや心身に障がいのある子どもを対象に理学療法、作業療法、言語聴覚療法を行っている。

イ 診療体制（令和7年4月1日現在）

(ア) 小児科 医師数2名

(イ) 整形外科 医師数1名（非常勤医師・子ども心身医療センターと兼務）

ウ 診療件数

（単位：人）

区 分	小 児 科	整形外科	合 計
延べ患者数	3,379	475	3,854
新患者数	76	18	94

エ 月別新患数

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小 児 科	5	5	6	9	12	5	9	3	6	7	3	6	76
整形外科	2	3	3	1	1	1	0	1	1	1	2	2	18
合 計	7	8	9	10	13	6	9	4	7	8	5	8	94

(2) 小児科

ア 月別患者数

(単位：人)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初 診	5	5	6	9	12	5	9	3	6	7	3	6	76
再 診	283	293	277	275	277	278	282	262	238	284	263	291	3,303
合 計	288	298	283	284	289	283	291	265	244	291	266	297	3,379
実患者数	143	143	142	150	153	148	148	132	134	151	143	158	1,745

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6～ 11 歳	12 歳 ～	合計	比 率
中 央 区	3	2	1	0	1	2	0	0	9	11.8%
北 区	2	5	0	0	2	0	1	0	10	13.2%
東 区	8	9	0	1	1	0	0	0	19	25.0%
白 石 区	14	4	0	3	0	0	0	0	21	27.6%
厚 別 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
豊 平 区	1	3	0	0	0	0	0	0	4	5.3%
清 田 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
南 区	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.3%
西 区	1	3	0	3	0	0	0	0	7	9.2%
手 稲 区	0	3	1	0	0	0	0	0	4	5.3%
札幌市計	29	30	2	7	4	2	1	0	75	98.7%
市 外	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.3%
合 計	29	31	2	7	4	2	1	0	76	100%
比 率	38.2%	40.8%	2.6%	9.2%	5.3%	2.6%	1.3%	0%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比率 (%)
札幌市保健センター	中央	3	63.2%
	北	3	
	東	13	
	白石	21	
	厚別	0	
	豊平	1	
	清田	0	
	西	4	
	手稲	3	
	〈 小 計 〉	48	
医療機関	市立札幌病院	9	25.0%
	天使病院	5	
	札幌医科大学付属病院	1	
	北海道医療センター	1	
	札幌市内診療所	3	
	〈 小 計 〉	19	
子ども心身医療 センター内	小児科	0	0%
	〈 小 計 〉	0	
その他	親自身の判断	6	11.8%
	みかは整肢園	1	
	保育園園医	1	
	発達医療センター整形外科(松山医師)	1	
	〈 小 計 〉	9	
	合計	76	100%

保健センターと医療機関からの紹介患者が大半を占めている。

エ 初診時診断名

(単位：人)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比率
脳 性 麻 痺	脳性麻痺	2	2	2.6%
先天異常	先天性大脳白質形成不全	1	1	1.3%
染色体異常	ダウン症候群	3	3	3.9%
発達遅滞・発達障がい	運動発達遅滞	50	58	76.3%
	協調運動障がい	8		
聴覚言語障がい	構音障がい	6	9	11.8%
	言語発達遅滞	3		
	極小低出生体重児	3		
合 計		76	76	100%

発達医療センターは主に運動発達の遅れや身体の障がい疑われる子どもを対象としているため「発達遅滞・発達障がい」の患者数が多い。

(3) 整形外科

ア 月別患者数

(単位：人)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初 診	2	3	3	1	1	1	0	1	1	1	2	2	18
再 診	38	46	39	28	51	38	42	35	36	32	31	41	457
合 計	40	49	42	29	52	39	42	36	37	33	33	43	475
実患者数	36	39	42	24	43	34	36	31	34	30	28	35	412

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6～11 歳	12 歳～	合計	比 率
中央区	0	0	1	0	1	1	1	1	5	27.8%
北 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
東 区	0	1	2	0	1	0	1	0	5	27.8%
白石区	0	1	0	0	1	0	0	0	2	11.1%
厚別区	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5.6%
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
清田区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
南 区	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5.6%
西 区	0	0	2	1	0	0	1	0	4	22.2%
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
札幌市計	0	3	6	1	3	1	3	1	18	100%
市 外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合 計	0	3	6	1	3	1	3	1	18	100%
比 率	0.0%	16.7%	33.3%	5.6%	16.7%	5.6%	16.7%	5.6%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比 率
医療機関	旭川総合療育センター	1	11.1%
	子ども心身医療センター整形外科	1	
	〈 小 計 〉	2	
発達医療センター内	発達医療センター小児科	15	83.3%
	〈 小 計 〉	15	
関係機関	みかほ整肢園	1	5.6%
	〈 小 計 〉	1	
その他	紹介状なし	0	0.0%
	〈 小 計 〉	0	
合 計		18	100%

エ 初診時診断名

(単位：人)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳性麻痺	脳性麻痺	2	2	11.1%
遺伝子異常	ATR-X 症候群	1	2	11.1%
	ジュベール症候群関連疾患	1		
先天異常	先天性大脳白質形成不全	1	1	5.6%
染色体異常	ダウン症候群	6	7	38.9%
	染色体異常症	1		
発達遅滞・発達障がい	協調運動障がい	2	4	22.2%
	運動発達遅滞	2		
その他	特発性尖足	1	2	11.1%
	両尖足変形	1		
合 計		18	18	100%

(4) リハビリテーション

ア リハビリテーション件数

(単位：件)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
理学療法	227	264	243	228	250	230	226	210	198	241	229	244	2,790
作業療法	107	106	106	100	112	104	106	109	96	114	101	115	1,276
言語聴覚療法	49	41	39	38	44	41	42	38	34	51	37	44	498
合 計	383	411	388	366	406	375	374	357	328	406	367	403	4,564

イ リハビリテーション実数

(単位：人)

区 分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
年間人数	167	88	43
職員 1 人の担当数	41.8	55.0	21.5

ウ 診療科別リハビリテーション指示数

(単位：人)

区 分	小 児 科	整形外科	合 計
理学療法	15	0	15
作業療法	8	0	8
言語聴覚療法	6	0	6
合 計	29	0	29

エ 年齢別のリハビリテーション状況

(単位：人)

区 分	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6～ 11 歳	12～ 14 歳	15～ 17 歳	18 歳 ～	合計
理学療法のみ	1	4	12	3	2	4	23	17	16	8	90
作業療法のみ	0	0	0	0	0	1	4	4	0	1	10
言語聴覚療法のみ	0	0	3	4	0	2	6	1	0	1	17
理学+作業療法	0	0	1	1	2	4	25	6	20	7	66
理学+言語聴覚療法	0	2	2	3	2	1	4	2	0	0	16
作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
理学+作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	3	2	5	4	1	0	15
合 計	1	6	18	11	10	14	68	34	37	17	216

※年度途中のリハ終了児及びリハ種別変更児も含む。

(5) その他

ア レントゲン

(単位：件)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	19	20	23	18	26	10	17	18	17	13	19	17	217